
ライダー × 仮面ライダー ダークキバViViD & DCD クウガ NOVEL大戦 ALL RIDER

バース

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×仮面ライダー ダークキバVivid&DCDク
ウガ NOVEL大戦 ALL RIDER

【ISBN】

N4932Z

【作者名】

バース

【あらすじ】

風都、夢見町、ミッドチルダ、そして天ノ川学園高校に訪れた危機。

仮面ライダーノヴァ率いる謎の組織『NOVA』の侵攻により、世界は再び恐怖に陥れられる。

自分の世界に帰還した小野寺ユウスケ／仮面ライダークウガと、本編から3年後：高校生となつた登オトヤ／仮面ライダーダークキバは、世界の危機に再びオールライダーの下へ！

オーブクライン、フォーゼマギカのライダー達も巻き込んだ『NO
V.E.L.大戦』、開幕！！

序章 風都の危機

序章 風都の危機

風都 某所

「『ジヨーカーエクストリーム！…！』『」

ここは風都……風の都と呼ばれる街であり、様々な都市伝説が行き交う不思議な街。

ここで日夜戦い続ける……2人で1人の仮面ライダーがいた。その名は『W』……仮面ライダーダブルだ。

左翔太朗とフイリップの2つの魂を持つ仮面ライダーは、この街に侵攻してきた『悪』を打ちのめす為、変身して戦っていた。敵の名は知らない……ただ攻めてきた、だから倒す。

「つたく……どうなつてんだこりやー！？無茶苦茶な数だぜ！…『ドーパントだけじゃ無く……ヤミーやゾディアーツまでいる……。興味深いが、今はそんな事言つている場合じやなさそうだ……。』

ダブルの右側が言つとおり、敵の数は10や20なんて物じゃない。軽く100は超えているだろつ。

いくらダブルがベテランの仮面ライダーだからと言つても、これでは霧が無い。

あともう1人ぐらい…人手が欲しいところだが……、

「『うなりや…エクストリームで一気に決めるか……？』

『…危ない翔太朗…！』

「あ？」

ぶつぶつと一人ごとを言つてゐるダブルに……後ろから怪人『カマキリヤミー』が襲いかかってきた。

突然の事にダブルはうまく反応する事が出来ず、とっさに身構えるのが精一杯。だが……、

『ウエイク！アップ！！』

『ぐあつ！？』

「大丈夫か…！仮面ライダーダブル！！」

「お前は…！！」

その時、ダブルに迫るカマキリヤミーを……1人の仮面ライダーが蹴り飛ばした。

その際、辺りは夜の闇に包まれ、カマキリヤミーは『牙の紋章』と共にメダルへと還元される。

この仮面ライダーを、ダブルは知つてゐる。

「助かつた…礼を言つぜ？仮面ライダーキバ…ワタル…！」

「さあ行きましょう……仮面ライダーダブル……翔太朗さん……フィ
リップ！！」

「ここから先へは行かせんぞ！！」

「通りたければ、俺たちを倒すんだな！！」

「風都を傷つける者は……この俺が許さん！……」

同じ様に風都のとある場所では……ダブルとキバ達が戦う怪人達の仲間が風都タワーを目指し、侵攻していた。
狙いは一つ……風都タワーに隠された、『ある物』を狙っているのだ。

この町の象徴である風都タワーを守るため、奴らの侵攻を防ごうと奮闘していたのは赤いライダー……仮面ライダーアクセル。
彼1人ではこの数を相手にする事は難しく、すぐに倒されてしまった。

だがそれを救つたのは2人の、赤と金の仮面ライダー。

「照井！……ここは俺とソウジに任せろ！！」

「俺達なら心配はいらない、俺もショウイチも……君よりはだいぶ大人だ。」

「感謝する……仮面ライダーアギト！仮面ライダーカブト……さあ振り切るぜ！……」

『トライアル！……』

「音撃打！…爆裂真紅の型！…」

「うえええええええええい！…！…！」

「うおりやああああああああああ！…！」

これ以上の風都への侵攻を防ぐべく、響鬼、ブレイド、電王の3人は、風都という町の入口の前に立ちふさがり、迫りくる怪人たちの群れを切り倒していた。

こちらの数はダブルやアクセル達が戦っている数の比では無く、ものはや数えるのすらバカバカしく思えてくる。

そんな中にもブレイド達は怯まずに突撃し、『サンダー』と音撃で周りの敵達を一掃。

とどめに電王がデンガツシャーを構えて10体程を纏めて切裂いた。

「へへへ…俺かっこいい！」

「バカタロスかっこつけてる場合じやないだろ！…？」

「カズマさん！…良太郎さん！…来ます！…」

龍騎とファイズの2人は、風都とはまた別の街……夢見町にて、怪人達と交戦中。

ここにも風都と同じように、彼らが狙う物が隠されているらしい。それが眠っているという『鴻上ファンデーション』を目指す怪人

達を喰らいくすぐすドラグレッダーに恐怖し、町中の人々は逃げ出し、それを狙っていた龍騎はこれで心置きなく戦えると『ソードベント』を発動。

ファイズの『ファイズエッジ』と共に怪人達へ斬りかかって行き、『つしゃあーー』と声を上げた。

「大丈夫ですかシンジさん！？」

「タクミ……ああ、大丈夫。それより……風都にいる皆は大丈夫なんだろ？」「？」

「メモリ……メダル……そしてスイッチ……。一体、今度は何を企んでいるんでしょう……奴らは……？」

「『NOVA』か……。わからないけど、とにかくやるしかない！……行こうタクミ……」

「はい……」

『エクシードチャージ』

『ファイナルベント』

「こんな事なら……ユウスケも連れてくるんだつたな……。」

「今更言つても遅いですよ士君、それよりも大樹さん、怪我は大丈夫ですか……？士君を庇つた時の傷は……。」

「平氣だよ夏メロンこじのぐら」……。」

天ノ川学園高校から約5キロ離れた場所で、大勢のマスカレイド達と戦うティケイド、キバーラ、そしてティエンド。

上空に見えるヘリコプターを睨みつけながら、ディケイドはカードを構えた。

それをディケイドライバーに装填するとすぐさまバッклを閉じ、彼はその姿を変える。

『カメンライド ブレイド』

『フォームライド ブレイド ジャック』

ベルトの真ん中からカブト虫の紋章が刻まれたカード上のエネルギー『オリハルコンエレメント』が出現。

ディケイドはジャンプしてそれをぐぐると、『仮面ライダーブレイド ジャックフォーム』へと姿を変え、ヘリコプターに向けてライドブッカーを振り下ろした。

しかしヘリコプターから現れた腕がライドブッカーを掴み取り、彼を地面まで叩き落とす。

墮ちて行くディケイドをキバーラとディエンドが受け止めるが、ヘリコプターから現れた腕……仮面ライダーノヴァは、忌々しそうにディケイド達を睨みつけた。

「虫けらどもめ……我らの崇高なる目的を邪魔されでは困るのだ……！」

「虫けらどもめ……！……あの学園のスイッチを狙っているんだろうが……そうはさせねえぞ……！」

「どうかな……これを見たまえ。」

そう言うノヴァの手に握られていたのは1本のガイアメモリ。

風都タワーに眠っていた、『伝説のガイアメモリ』だ。

それを見たディケイド達は驚きの表情に変わり、ライドブッカーを地面に落としてしまった。

「馬鹿な……ワタル達が負ける筈がねえ！！」

「残念だつたな仮面ライダー達。さあ、早いところスイッチを手に入れ、次はメダルの回収だ。」

「ま、待て！！」

追いかけるディケイド。

しかし傷ついた彼ではヘリコプターの速度に追いつけるはずが無く、
ダンツ！！と地面を殴りつける。

メモリのライダー、ダブルがガイアメモリを守れなかつた今、頼みの綱はメダルとスイッチの仮面ライダー……オーズとフォーゼだけだ。

敵の目的は知らない。

だが、この世界で彼らの存在を知つてしまつた以上、絶対に止めなくてはいけない。

それがこの世界で、ディケイドのするべき事なのだ……。

せめてクウガがいれば……しかし、クウガはこの世界に来る少し前に『大事な用事』があるために自分の世界に帰つて行つた。

これは彼等、仮面ライダー達とクウガ、そして……成長したダークキバ達の物語である。

仮面ライダー × 仮面ライダー ダークキバ Vivid & DCDK
ウガ NOVEL 大戦 ALL RIDER

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4932z/>

仮面ライダー×仮面ライダー ダークキバViViD & DCDクウガ NOVEL大戦ALLR

2011年12月16日21時47分発行